

# 週 報

1988年7月31日 聖霊降臨節第11主日

巻 9 18号

1988年度教会主題

「真理の御言に聴き、従う」

あなたの御言は真理であります。あなたがわたしを世に  
かわされたように、わたしも彼らを世につかわしました。  
また彼らが真理によって聖別されるように、彼らのため  
わたし自身を聖別いたします。

ヨハネによる福音書17章17節b-19節

日本キリスト教団 **横浜港南台教会**

会 堂 〒233 横浜市港南区港南台 7丁目 8-29

☎ 045-833-5323

振替 横浜 9-13984

牧師宅 〒235 横浜市磯子区洋光台 5丁目 6-3-304

☎ 045-833-6616

牧師 **秋 吉 隆 雄**

## —牧師室から—

海上自衛隊の潜水艦「なだしお」が大型釣り船「第一富士丸」と衝突し、沈没させ、30名の死者を出す大惨事を引き起こした。事故の真相が次第に半明されると、どうも潜水艦の過失と思われる。あってはならないことだが、過失は起こりうる。問題に思うことは事故後、自衛隊は救助活動をせず連絡が遅れ、報道機関に対しても大変高飛車なことである。民間人よりも自衛隊優先の姿勢があまりに目立つ。権威主義的、閉鎖的、特権意識的な自衛隊の恐ろしさを見る思いがした。

大正デモクラシーといわれた時代、軍人は軍服を着て町中を歩くことに気がひけたが、その数年後大手を振って軍服で闊歩するようになったという。

日本は、悲惨な敗戦の体験から軍事力を放棄した平和憲法を持ち世界に対して平和を希求する国として出発した。警察予備隊から保安隊そして自衛隊と着実に軍事力

は拡大してきたが、今や自衛隊様のお通りだという感がある。

更に、民間人無視、放棄の体質は、まず旧北満州に置き去りにした関東軍を思い出す。彼らのため民間人が中国大陸で無残に死に、残留孤児が大勢生れたと言える。また、沖縄県民を犠牲にして生き延びようとした軍人の姿を思い出す。日本軍が南京で犯した虐殺と同じ目に合うと教育されたから、肉親を殺し合う集団自決へと追い込まれた事実もある。

私は「愛される自衛隊」などは決して信じないが、今回それが如実に表われた。軍隊は、現在の法では合法的に戦争ができるが、戦争は要するに人殺しと破壊であって、どんな犯罪よりも罪が重い。この軍隊を「国家秘密法」で覆ったら原、水爆を作っても国民は知らないということも起こりうる。

自衛隊の絡んだ事故であり、その対応のあり方などから、国民は自衛隊についてもっと論議をすべきではないだろうか。